

西日本インカレ（合同研究会）2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報に記載しないでください。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ）オオサカケイザイダイガク	フリガナ）ケイザイガクブ	フリガナ）ミヤカワトシジ ゼミナール
大阪経済大学	経済学部	宮川 敏治 ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	パワーポイント内の 動画使用（有・無）
フリガナ）りべらら	フリガナ）ヤマグチジュン	7	無
リベララ	山口 純		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール（具体的に使用するツールを明記してください）
スティック

研究テーマ（発表タイトル）
Dreams Come True ～なりたい自分になる～

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

本研究はダン・アリエー氏の著書『嘘とごまかしの行動経済学』の中で明らかにされている「人はごまかしが可能な条件下のテストで、不正したうえで不正したにも関わらず、そのテストの結果を自分の点数だと根拠のない自身を持ち、自分がその点数を取れると信じていた。」という結果を基にその不正による自信は、その後のテストに影響を及ぼすのかを考察する。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

アメリカの行動経済学者ダン・アリエー氏は被験者を二つのグループに分け（A・B）ランダム化比較試験に従い2回のテストを行った。両グループ同じ問題を解かせたがグループAには予め問題用紙の下に小さく解答が書いてあり、解答は見ないように忠告し問題を解かせた。グループAとBの平均点を比較するとグループAの方が平均点が高く、不正をしていることが明らかになった。さらにグループAに答えの無い同レベルの問題を解かせると続け、予測させた点数が高かったことから、グループAの被験者は不正をしたうえで点数が自分の力だと信じ、自己誇張をしていることが明らかになった。

3. 研究テーマの課題

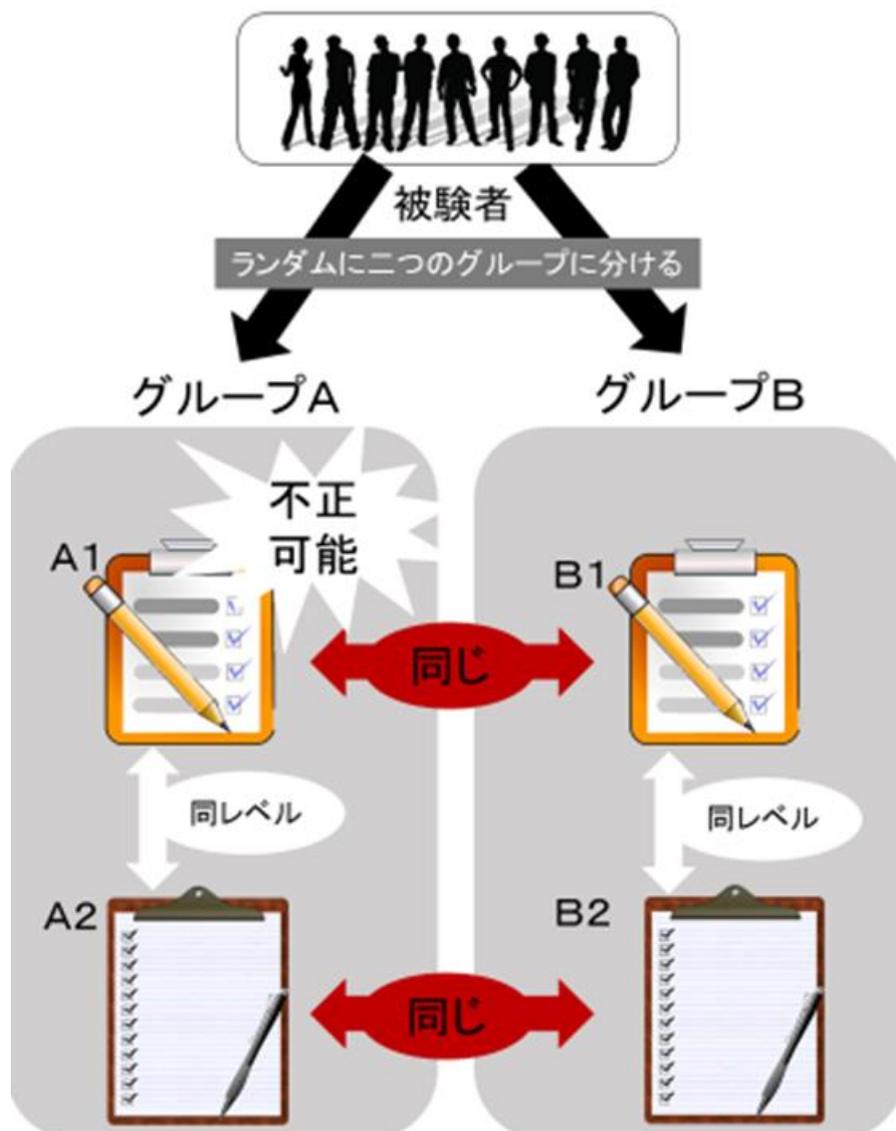
ダン・アリエー氏の「人は不正をする」という事を踏まえ、その不正によって得た根拠のない自信が今後のテストに良い影響を及ぼすのか。元々の頭の良さによる点数ではなく、ランダム化比較試験を用いて1度目のテストと2度目のテストの平均点を比較することにより、1度目のテストの結果が2度目のテストの結果に繋がったという事を明らかにする。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

私たちはランダム化比較試験を用いて3種類のテスト（言語・非言語・IQテスト）を大阪経済大学の学生を対象に統計的手法を使い調べる。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

まず被験者をランダムに2つのグループ（A・B）に分け、言語・非言語・IQテスト、この3つのジャンルの問題を各々2度ずつ行う。（グループAの一度目のテストをA1 二度目のテストをA2 グループBの一度目のテストをB1 二度目のテストをB2とする）A1のテストには予め問題の下に小さく答えが書いてあり、不正が可能な条件にしておき、A1とB1の問題の平均点を比較しグループAが不正を行っているかを明らかにする。次に一度目のテストの点数を明かし、同レベルの問題を解いてもらおうと告げ（この時、次の問題には小さく書かれた解答がないと告げてある）点数を予想させる。予想した点数により、グループAは自分の力ではなく不正を働いた結果の点数を自分の能力と過信している事を明らかにする。その後同レベルの問題A2 B2を解いてもらい、グループAとグループBの点数を比較し、1度目のテストの結果が2度目のテストの結果へどのような影響を及ぼすのかを考察する。



6. 結果や今後の取り組み

大阪経済大学生を対象とした実験は既に完了しており、データを研究し私たちが考える限り、1 度目のテストによる自信は 2 度目のテストに大きく影響し、1 度目で良い成績を得たと過信したグループ A は 2 度目のテストでグループに比べより良い成績を収めた。

今後の課題としては、私達の結果を踏まえ、“ではどのレベルの根拠のない自信までが今後の課題に良い結果を残せるか”という事である。自分の能力が著しく低い自信だけがある状態では良い結果が残せるとは思えない。しかしひとまず、何か課題に直面した際にその課題が難なく遂行出来るという「自信」が不正により得た「根拠のない自信」であったとしてもより良い結果を残すという私達の研究結果は非常に社会的に意義があるのではないだろうか。

7. 参考文献

- ・Michael I. Norton, Francesca Gino, and Dan Ariely「Temporal view of the costs and benefits of self-deception」
- ・ダン・アリエリー 訳 櫻井祐子 早川書房「ずる 嘘とごまかしの行動経済学」
- ・理論スポーツ「良いイメージがスポーツ動作に良い影響を与える科学的根拠」<http://rkyudo-sports.com/category7/entry105.html>
- ・名門なぞなそクイズ学院「これが解ければ I Q 1 5 0 ? 難問クイズ」http://answer-q.blogspot.jp/2013/08/blog-post_4325.html
- ・「S P I 無料学習サイト」 <http://saisokuspi.com/>

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、翌年 3 月に公開予定の「大会結果 Web ページ」に掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HP などに発表されていない）ものに限りです。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず使用するツール名をご記入ください。企画シートにご記入が無い場合は、発表当日の使用はできません。あらかじめご了承ください。

↑ここまでを 4 ページ以内に収めて、提出してください↑